

## 令和5年度 第2回千葉県博物館協議会会議 議事録

日時：令和6年2月20日（火） 午前10時～12時

会場：千葉県立中央博物館 会議室

出席者： 委員 高橋委員（議長）、濱田委員、井口委員、卯木委員、湯浅委員、鴻野委員、  
細矢委員、綱島委員、門脇委員

博物館 美術館：貝塚館長、中松副館長

中央博物館：田中館長、小田島副館長、米谷自然誌・歴史研究部長

現代産業科学館：藤田館長

関宿城博物館：糸原館長

房総のむら：岩崎館長、大森副館長

文化振興課 立和名副技監兼学芸振興室長、宮川副主査、小出副主査、柴技師

事務局 大木企画調整課長、尾崎上席研究員、樽研究員（記録）

### ※ 配付資料確認【事務局】

- 1) 座席表、議事次第
- 2) 協議会委員名簿、出席者名簿
- 3) 議事資料 千葉県立中央博物館みらい計画（案）  
千葉県立美術館活性化基本構想（案）

1 開会【事務局】：委員10名のうち9名の出席により会議成立。

傍聴者1名。

2 あいさつ【中央博物館：田中館長】

3 出席職員紹介

4 議事（別紙参照）

5 諸連絡【事務局】

6 閉会【事務局】

## 【議事】

(1)：千葉県立中央博物館みらい計画の策定について

### 【高橋議長】

これより議事に入ります。

本日も、ご専門の立場、またそれを離れた立場での活発なご意見ご質問等お寄せいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、最初の議事ですが、千葉県立中央博物館みらい計画の策定についてです。文化振興課から説明をお願いいたします。

### 【文化振興課】

配布資料（資料1）を用いて説明

### 【綱島委員】

前回より非常にわかりやすい資料になったと思います。これであれば、現在行っているパブコメでも県民の皆さんから様々な意見が出てくるものだと思います。

2点質問させてください。

1点目ですが、16ページの目的についてです。「文化」という言葉を入れられたという話をお伺いしましたが、文化という言葉は非常に広い意味を持ちます。この文化はどのようなことを指すのでしょうか。具体的な意味合いがわかるといいと思います。

2点目は18ページの基本コンセプトの部分ですが、「多彩な特徴をもつ半島ちばの未来を切り拓く」という非常にいいキャッチコピーだと思います。千葉県内のこのような会議に参加していると県民の皆さんは千葉県がポテンシャルが高いということを知っておられます。では、どのようにそのポテンシャルを活かしていくのかということに関しては視点が欠けていて、この後のリード文章の前半は、皆さんがわかっている千葉県のポテンシャルの高さを感じるのですが、結びの国内外を牽引する存在になるためにどうやって活動していくのかということだと思います。計画は非常にわかりやすくいいものだと思うので、どのようにソフト面を展開していくのかということになるとは思います。ここをしっかりと考えていく必要があると感じました。

### 【文化振興課】

文化についてですが、自然と歴史に文化を付け加えた意味をきちんとお示ししていかなければならないと思っております。自然と歴史の両方が交わることによって人間の営み、文化が生まれてくるということで文化という言葉を付け加えました。こちらについては、前

回の会議でも綱島委員から御指摘がございましたように、概要版等の作成作業において活かしてまいりたいと考えております。また、ポテンシャルをどのように活かすかということについては、今後の様々な博物館活動によって県民の皆さんが千葉県はこのような場所であるということを自信を持って言えるようなことができるように、そのような活動を牽引していくためにどうするのかということを実施計画の中でも考えていきたいです。

**【細矢委員】**

18 ページの理念や本資料の内容は、今日の議論を踏まえて変更していくのでしょうか。

**【文化振興課】**

今お示ししているものがパブリックコメントに出しているものですので、県民からの意見を踏まえて多少は変わる部分があると思いますが、大きく変えることはしません。大きく変える必要が出てきた場合には、実施計画の作成や今後の見直しの段階で行う予定です。

**【細矢委員】**

その上で少し指摘したいのですが、「多彩な特徴をもつ半島ちばの未来を切り拓く」というキャッチコピーは素晴らしいと思います。しかし、これだけを聞くと博物館のキャッチコピーには聞こえない、博物館という切り口が損なわれていると思います。例えば、博物館活動では資料収集、保存というのがありますので、半島ちばの未来を切り拓くというところが、開発偏重になりすぎているような印象があります。こうしないためには例えばですが、半島ちばの過去と現在を知り、未来を切り拓くというのはいかがでしょうか。リード文を読むと博物館という言葉があるので、博物館のコンセプトであることはわかりますが、調査研究をやるために、資料の収集や保存を行い、現在を大切にしながら未来を切り拓くということを明示した方がいいと感じました。基本コンセプトを直さないのであれば、他の部分で今のことを言えばいいと思います。

**【文化振興課】**

ありがとうございます。

**【鴻野委員】**

取り組みの方針として、分野をつなげることが挙げられていることに可能性を感じました。

先日現代産業科学館で行われているいちかわ芸術祭を拝見しましたが、産業科学館という特性を活かしてサイエンスアートの興味深い作品が多数展示されておりました。分野を超えた繋がりがあがることで科学とは何か、芸術とは何かということを問いかける興味深い展

示でした。23 ページの 1 には両分野の連携と書かれていますが、このような優れた先例があると思います。

**【文化振興課】**

ありがとうございます。

**【細矢委員】**

質問ではなくコメントです。本資料は非常にわかりやすいと感じました。

この会議とは別に先日デジタルアーカイブ関係のこともお世話になりました。自然標本と文化関係の資料の両方を持っているということが中央博物館の強みであると思います。自然系の標本は天然物で数が多く、文化財の方は人工物で 1 点物が多く数が少ないこともあって、天然物と人工物を一緒に保管すると汚染の関係で問題になるので、管理上は非常に難しいと思います。デジタルアーカイブで情報という形にすると利用者がうまくつながる可能性があると思います。資料のデジタルアーカイブ化が両者の連結プラットフォームとしてつながるきっかけを呈する物であり、それが思わぬ化学反応をもたらすのではないのでしょうか。一例として先日中央博物館で行われた、マッチラベルコレクションは素晴らしい展示でした。このような人工や文化と天然の標本が良い形で融合され、そこに例えば千葉という通奏低音があることによって、ベクトルの違う天然物と人工物、文化財もうまく融合できると思います。また、デジタルアーカイブ化というのは資料をしっかりと残すということを県民にも示すということで、資料の収集・保管という博物館の基本機能に直結し、利用促進の点からも期待できるものと思っております。

**【文化振興課】**

博物館職員と話した際は自然と人文の融合ということについて反対意見もありましたが、細矢先生にご説明いただいた点が、まさに我々が目指しているところだと思えます。総合博物館という道を選んだからには、その部分に関してきちんとやっていきたいと思えます。

**【細矢委員】**

どこの総合博物館も同じ道を経験していることと思えます。

**【井口委員】**

この間の資料よりもわかりやすくなっていると感じました。その中で、人をつなげるという文言がそれぞれのパートに入っていて、これはとても大事なことだという意識があるからに違いないということはわかります。例えば、23 ページの 4 に「年齢や国籍の違い、障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめ、わかりやすい魅力的な展示や講座等の実施、レ

ファレンスサービスの充実」とあります。今の計画の中であればこの記述でいいかもしれませんが。しかし次の段階への要望としては、国連の障害者権利条約やそれを受けての障害者差別解消法等が整備されてきていて、博物館においても、だれにもやさしい視点に立って「合理的配慮の提供」が義務付けられている。それを実現していくことが重要になるのだということを示して、広く知らせておく方が良いと思います。

関連してもう一つですが、先ほど博物館内の職員、世代を超えて若い職員とも意思疎通を図りながらこの計画が作られてきたとお聞きしました。この分野、合理的配慮の提供は、当然予算面が大きく影響してくる分野ですので、計画が作成された時はいいのですが、時間が経つとその意識が薄らいでいくことも起こりかねません。今の段階でできることは、次の段階でもっと書き込んで、職員を含めて同じ方向を向いてほしいと思います。

#### 【文化振興課】

ありがとうございます。ここの部分は博物館だけでなく、環境生活部としても、千葉県としても非常に力を入れているところでございます。計画の中にきちんとこのような配慮についてわかりやすいようにお示ししていければと思います。

#### 【湯浅委員】

前回欠席したので初めてこの資料を拝見しましたが、よくできてるなという印象です。先ほど綱島委員からご質問があったかと思いますが、拝見してまず目につくのが「文化」が追加されたことです。例えば18ページの基本コンセプトを拝見しますと、文化には独自性や多様性など開いていく文言のイメージがあります。このことを考えると、コンセプトの中でこれがどのように反映されているのだろうかという意見を持つ人も多くいると思います。すでにパブリックコメントを行われているということで、改善はできないかもしれませんが今後の具体的な計画の中では何が文化であるということにぜひ触れていただきたいと思います。ここに関連することとして、先ほど細矢委員からご意見も出ましたが、文化財という言葉は非常に具体的なものです。博物館の収集活動の対象として非常に重要だと思いますし、その辺りが具体性なのではないかとも思いますので、ぜひご検討いただきたいと思います。

それからもう一つですが、24ページの運営体制についてです。専門職員の確保、体制整備の充実化に関連してですが、例えば5の未来につなげるの3で「事務系を含む職員育成等による持続的な運営体制の構築」とありますが、博物館の専門職は学芸員です。もちろん学芸員だけで博物館は成り立っていないことは理解していますが、このようなコンセプトの策定の中に学芸員ということが必要であると思いますので、どうかご検討いただきたいと思います。

#### 【文化振興課】

湯浅先生が仰った視点は持っていて、最初は学芸員の話だけをしていましたが、博物館を支えるのは研究員だけではないという話になって今のような形になりました。今、学芸員ということが隠れてしまっているように見えているのであれば、わかりやすい表現に修正します。我々の問題意識としては継続的な学芸職員の採用等を念頭に置いています。

**【湯浅委員】**

ぜひ検討をお願いいたします。

**【高橋議長】**

2点お伺いしたいことがございます。

1点目ですが、今パブコメの最中ですが、この計画は今後どのように進んでいくのでしょうか。10年後の未来像が描かれていますが、その10年後の未来像に向かってどのようにことを運んでいく予定なのかという長期的な計画をお伺いしたいです。

**【文化振興課】**

長期的な計画としては、現在パブコメにかけている「千葉県立中央博物館みらい計画」について、今年度末に成案を提出します。来年度以降は具体的な施設整備の計画に入ります。同時にソフト面では実施計画を作成しているところでございます。その実施計画に基づいて、進行状況等をチェックする評価制度を検討中です。来年度1年かけてそちらを決めた上で、5年くらいの刻みで、この事業をお示ししながら進めていく予定になっております。施設整備計画については、リニューアルに係る内容も含め、数年後にきちんとした形でお示しする予定です。

**【高橋議長】**

それは県立博物館として進めていくお考えでしょうか。

**【文化振興課】**

その通りです。現在、中央博物館と美術館が先んじて進んでおりますが、県立博物館全体の実施計画や評価制度が定まっていない部分がありますので、そこを今整理しているところでございます。

**【高橋議長】**

そうすると、5年くらい後に1回締めみたいなものあって、評価をし、また5年後に完成に向かうという理解でよろしいでしょうか。

**【文化振興課】**

1年刻みで行っていきませんが、中期で5年、今お示ししているこの計画も10年で確認する予定となっております。

【高橋議長】

現代産業科学館や関宿城博物館はこの計画とどのようにかかわるのでしょうか。

【文化振興課】

関宿城博物館と現代産業科学館については県立博物館としてきちんと運営を続けていくという姿勢で、実施計画も作成して取り組んでいく予定でございます。ただ、県としての方針はまだあり方を検討するということでございます。

【高橋議長】

そういうことが決まらなとなかなか物事を進めにくいと思うのですが、そのあり方はいつ頃までに決まる予定なのですか。

【文化振興課】

周りや先方のこともありますので、申し上げにくいところでございます。

【高橋議長】

基本コンセプトは県立博物館全体ではなく、中央博物館のことでしょうか。

【文化振興課】

仰るとおりです。この資料の第1章は県立館が目指すもの、このようなことをしていますという箇所になっています。現代産業科学館や関宿城博物館はあり方は検討していますが、向こう5年間は確実に今の体制で進んでいくことになろうかと思えます。

【高橋議長】

中央博物館の文言はもう少し考えてみてもいいかなと思いますが、いいアイデアだと思います。千葉県立博物館全体をまとめるようなコンセプトはないのでしょうか。

【文化振興課】

令和2年に整理した千葉県立博物館の今後のあり方に県立博物館はこういうものであるということをお示ししていますので、そこを受けて現在は動いているという状況です。

【高橋議長】

コンセプトに向かって様々な活動をしていくという方法もありますので、県立博物館全体をまとめたものがあるとわかりやすいし動きやすいと思います。

**【文化振興課】**

ありがとうございます。検討していきます。

(2) 千葉県立美術館活性化基本構想の策定について

**【高橋議長】**

それでは続きまして、千葉県立美術館活性化基本構想の策定について美術館からご説明をお願いします。

**【美術館】**

配布資料（資料2）を用いて説明

**【湯浅委員】**

活動方針の4「サステナブルな美術館に」というところが、貝塚館長が言われたかつての理念について、いわば否定系になってしまう方々を取り残さないという意味で、一番大事なところだと理解しました。私が勤める大学でも、障害者差別解消法が法制化された後、合理的配慮が義務化されていく大きな社会の流れのなかで方策が要求されていた経緯がありました。おそらくその部分と関わることになりましたが、「サステナブルな美術館に」では8ページに「障害の有無等を問わない継続的な芸術活動の支援」「あらゆる人々にやさしい環境の整備」と書かれています。この部分について具体的な取り組みがあれば教えていただきたいと思います。

**【美術館】**

15ページに少し具体的に書いております。予算措置ができていない段階ではあまり具体的なところまで踏み込めないという段階で、このようなことを目指していきたいと思っております。「多様な主体や地域のパートナーとともに、社会的課題の解決に貢献します」についてですが、これはまさに改正博物館法に問われた地域の活性化に美術館、博物館も何かしらの責任を持たなくてはならないという部分について我々は真摯に受け止めるというパートになります。これは中央博物館の計画と重なりますが、今はうまくつながらないところはつぶれていきます。繋がるのはさまざまな主体にということになりますが、つながるということは双方が苦しむのではなく、win-winの関係になるということです。これを核にアート、美術館という空間を活かしていきたいと思います。

それから「未来につながる美術館を実現する基盤を整備します」ということで、我々は美術館施設として物理的な課題を持っていると認識しています。今の段階ではここに書き込めない事情があるので、現場として認識していますということを申し上げておきます。物理的な課題の一つとして、サステナビリティや多様性に対応したものを充実していきたいと考えています。

それから組織として、サステナブルにならなくてはならないということは中央博物館と全く同じです。専門的な人材をどう確保してそれをどう養成していくのかは本当に喫緊の問題であり、我々は危機感を持って取り組みたいと考えます。

#### 【湯浅委員】

包括的な議論はその通りだと思いますが、障害の有無を問わない継続的な芸術活動の支援は非常に注目される場所だと思います。私のような素人がみても凄いことだな刮目しましたので、この部分が議論になるのではないかとってお聞きした次第です。ありがとうございました。

#### 【鴻野委員】

理念について大変感銘を受けました。館長が仰る通りアートはアルタミラやラスコーの洞窟の時代から人類と共にあるものであったわけですが、人間の生活や社会が大きく変わる中でアートが変化し、今わかりにくいものと捉えられているところがあるかと思います。よく言われることですが、音楽だと好き嫌いで反応するのに美術だとわかるわからないになってしまいます。アートを問うこと自体の面白さを通じて、アートの楽しさを伝えることができるのではないかと思います。

14ページの「滞在制作プログラムの継続的な実施・支援」について質問です。滞在制作はこれまでロシアや東欧の作家が日本で滞在制作をしたケースに何度か立ち会ったことがあります。違う文化や土地の中で作家が追求してきた重要なテーマを継続しつつ、文化や風土から得たインスピレーションで創作がこう大きく発展していくという何度か場面を見ました。これは作家にとって重要なだけでなく、受け入れる美術館にとってもそうした作家の視点、交流が重要になってくると思います。この滞在制作プログラムはどのような規模形式で今のところ考えられているのでしょうか。

#### 【美術館】

令和6年度以降、美術館の活動の1つの柱にアーティスト・イン・レジデンスを位置付けようと考えています。ただアーティストに来てもらって作品作りをしてもらうにしてもとっかかりがありません。そこで千葉県と非常に繋がりのあるドイツとオランダにとっかかりをつけようということで、実はすでに事業を進めております。千葉県はドイツのデュッセルドルフと姉妹都市の関係にあります。オランダとは東京オリンピック・パラリンピック

クをきっかけとして付き合いがあり、昨年の秋から行ったテオヤンセン展もこれに関わっています。ドイツとオランダの作家

に来てもらう、あるいは我々が作家を選んでドイツやオランダへ行ってもらうというプログラムの準備を進めているところでございます。ドイツ、オランダしかやらないわけではないですが、とっかかりとしてこの2つの場所との交流を行います。今年の夏の五十嵐靖晃さんの展覧会では、アーティスト・イン・レジデンスとは異なりますが、千葉県内にいらっしゃる方が千葉みなとにきて作品を作るということですので、滞在まではいきませんがある種のアーティスト・イン・レジデンスに近い活動だと思います。これは、地域との結びつきやそれから交際交流など、というさまざまな側面を持って我々として取り組んでいきたいと考えています。

#### 【綱島委員】

強い意志を持ってチャレンジしていこうということがよく伝わったので、大いに期待したいと感じました。7,9ページの活動方針の1「新たな出会いと発見の場に」に書いている大切に受け継がれてきたアートが変革をしようとしていく中で、古きを温めてと大切に受け継がれてきた活動をしつつ、新しい活動を行なっていくことは、なかなか難しい面もあると思います。今お話を伺って、ターゲットとするゾーンを変えて、今までの来館者とは別ゾーンのお客様を入れたいということを感じました。この辺が今後パブコメやさまざまな意見を聞く中で難しくなっていくのではないかと感じています。やはり、新しいことを行うときのエネルギーが古いものを守ることと相反する時があります。そのようなことをうまく調整して新しいものを作っていただきたいと感じました。

#### 【美術館】

先ほどの説明が新しさを追求するところが強調されたかもしれませんが、我々は50年の歴史を否定するということは全くありません。50年の歴史の上に積み上げていくというつもりです。また我々が携わってきた主として日本の近代美術ということになりますが、これを捨てるということは考えておりません。具体的には、令和6年度の4月から五十嵐靖晃さんのコミッションワークを中心にしたような作りたての作品をご覧いただく展示の後には、千葉県美術会の展覧会、その次に浅井忠の展覧会を開催します。浅井忠は130年前に活躍した画家で、世界で一番浅井忠の作品を持っているのは千葉県立美術館です。令和6年時点で浅井忠を眺めるとどのようなものが見えてくるのか、50年間美術館が付き合いしてきた浅井忠はこういうものであったということを発表するような展覧会にするつもりです。ですから、今まで取り組んできた近代美術を輸出するわけではなく、さまざまな組み合わせで、かつ古いものを今取り上げることを常に考えながら、それから子どもたちに浅井忠という人物を知ってもらいたいと考えています。新しければいい、古いからダ

メということではなく、綺麗事かもしれませんが、それらをうまく組み合わせながら両方とも高めていきたい、目指していきたいと考えています。

#### 【細矢委員】

ご説明を聞いていて、アートを問う、問われなければいけないというアートの理念が非常によく入ってくるようなところでありました。一方で50年間積み上げてきた「みる、かたる、つくる」ことも非常に大事で、柔らかい言葉で3つくらいに整理されていると非常に伝わりやすいと思います。私が勤めている筑波実験植物園では「植物の多様性を知る、守る、伝える」、神奈川県立生命の星・地球博物館では「集める、調べる、伝える」というように整理されています。このように「みる、かたる、つくる」ということも非常に大事ではないかと感じました。今回、3つのものが4つの方針になるということで既存の「みる、かたる、つくる」はどうなるのかということが質問です。3つのものが4つの活動方針に整理されるのか、それとも別の形で3つの標語を作成されるのか伺います。

#### 【美術館】

「みる、かたる、つくる」という理念は先ほど申し上げたように90%正しいと思っております。この理念に基づいて美術館は建設されています。理念が変わったからといってこれまでの活動を否定することはなく、より活性化させる形にして続けていくという考えです。ですから、3つのキーワードでまとめられたものを一度バラバラにして4つに落とし込んでいくというのが我々の考え方です。今までのものを違う形に読み替えて、混ぜ合わせて、落とし込んでいきたいと考えています。「みる、かたる、つくる」という言葉は標語として非常によくできています。我々が「アートを問う」とホームページに載せるかどうかはまだわかりません。これは基本構想案でプロが見てもわかる、社会教育の関係者の方々にとってわかりやすいものということでこのような冊子を作成しました。今パブコメが行われておりますが、この資料を全て読んでもらうということは無理な話です。そうすると、この冊子を全部集約して、意味を込めた、この理念を具体的にわかりやすくしたようなものを、ホームページ1ページくらいで作る必要があります。この場合、「アートを問う」という言葉ではなくて、小学校高学年でもピンとくるような言葉で書き換える作業が出てきます。昨年10月から外部人材ということで広報の専門家に週1回来てもらっておりますが、このようなことをどう一般的にアウトプットしていくのかということは丁寧に仕上げていきたいと考えています。子どもが読んでも何となくわかる言葉を使っていきたいと思っております。

#### 【高橋議長】

アートという言葉がかなりキーワードになっていると思いますが、この言葉は非常に広い意味を持っていると思います。美術館が活動する上でどの辺の範疇をアートとして考えておられるのでしょうか。

**【美術館】**

アートという言葉の使い方は非常に難しいものです。アートという言葉の使い方を決めてしまうことがよくないことで、アートはこの範囲であるという境界線を取り続けていくこともアートの問いのあり方だと持っています。だから、アートはこの範囲と決めることはなく、具体的には千葉県立美術館で発信するもの、展示やホームページ等で発信するものが、我々がその時考えるアートであって、2024年時点の答えの1つとして提示するものではありますが、将来変わっていくことを含んで、アートを使っていきたいと考えています。

**【高橋議長】**

先ほど、千葉市美術館の話題がありましたが、千葉市美術館が有名なのはコレクションの方針がはっきりしていることがあると思います。いろいろ手を伸ばしていくという方法もいいのかもしれませんが、ターゲットが絞られないために活動が見えにくくなる可能性があるのではないかと感じました。その辺はいかがでしょうか。

**【美術館】**

千葉市美術館は確かに方針が明確で、わかりやすい活動をされています。千葉市美術館の方針がわかりやすいのが、コレクションの展覧会です。千葉県立美術館もこれまでのコレクションの蓄積があり、このコレクションが明確な守備範囲となっていますが、これを展覧会へ広げていきたいと思っています。今までのコレクションを大事にしながら、それを広げていくという形で

千葉県立美術館のカラーを5年間くらいで作っていききたいと思っています。これは、展覧会などの活動を発信し続けることによって外部の方々に認識いただくもので、多少時間をかけて取り組みたいと思っています。

(3)：その他

**【高橋議長】**

事務局からは何かありますか。

**【文化振興課】**

美術館の説明について補足と、文化振興課より御報告させていただきます。

先ほどの美術館の説明の中で、ドイツ、オランダとの交流について話がありましたが、ドイツについては今行われております 2 月議会で予算の上程中で、次年度以降具体的な準備を進めて参ります。昨年、県の短期海外研修で美術館職員をドイツ、オランダへ派遣しました。数十年前に中央博物館から職員を派遣していたことはございますが、県立博物館・美術館の職員の派遣は久々のこととなります。他の博物館にしても、海外での経験を業務に活かしていただくということで積極的に進めて参りたいと思います。また、大きく変わったことでは、予算面が挙げられます。これまでは通常単年度予算として 3 月に議決される 2 月議会で予算を決定し、年度ごとに執行しますが、そこから展示の準備を進めるのでは間に合わないという声がありました。そこで、昨年度からは債務負担行為を設定し、前年度から準備ができるような体制をとることができるようになりました。加えて、千葉県では博物館・美術館資料購入のために 20 億の購入基金を設定しておりますが、そのうち半分以上について長年買戻しがなされないままの状態に置かれておりました。こちらについても年度内に買戻しを行い、次年度以降新たな資料を購入できるように準備を進めていくところでございます。外部人材につきましては、美術館にブランディングに関する人材を 1 人、それから県立博物館全体の広報についてアドバイスをいただける人材を 1 人、昨年の秋から採用しています。

令和 6 年度は、美術館が開館 50 周年、現代産業科学館が開館 30 周年を迎える節目の年となります。また、関宿城博物館も令和 8 年度に開館 30 周年を迎えます。このようなことも含め、博物館を取り巻く状況については、今後も色々な動きがありますので、委員の先生方にはこのような状況を踏まえつつ、御注視いただければと思います。今後も協議会の中で説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

**【高橋議長】**

各委員からは何かありますか。

**【委員】**

ありません。

**【高橋議長】**

他にご意見等がなければ、これで議事を終了とし、事務局に進行をお返しいたします。ありがとうございました。